

財団法人 損保ジャパン美術財団

平成21年度(2009年度)事業計画

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

I 方針

1. 展示活動を活発に行い、多くの人々に親しまれる美術館として美術・文化の振興につとめる。
 - (1) 特別展においては当美術館としての特性を生かし、国内外美術館等から優れた美術品を招致する。
 - (2) 館外展を含め館蔵作品の貸し出しを通じて、国内外地域との文化交流を図る。
2. 優れた美術家の表彰ならびに支援によって美術界の発展に寄与する。
3. 社会教育、特に青少年を対象とした教育・普及活動を推進する。
特に対話による美術鑑賞教育支援の仕組みを構築する。

II 事業

1. 損保ジャパン東郷青児美術館の運営

(1) 美術作品の収集、保存、公開

① 特別展

1) 没後80年「岸田劉生 - 肖像画をこえて」

(平成21年4月25日～7月5日)

没後80年を記念し、人間の顔の魅力こそが劉生を写実に向かわせたのではないかと視点から「肖像画」に焦点をあて、独自の写実表現を完成させた岸田劉生の画業を約80点で展望する展覧会。

2) ちひろ美術館コレクション

「絵本原画と世界の絵本画家たち」

(平成21年7月11日～8月30日)

「いない いない ばあ」(松谷みよ子・瀬川康男)をはじめとするミリオンセラーの絵本や世界10カ国30名の絵本画家の原画約120点をまとめて紹介する展覧会。

3) ベルギー王立美術館コレクション

ベルギー近代絵画のあゆみ

(平成21年9月12日～11月29日)

ブリュッセルにあるベルギー最大の美術館、ベルギー王立美術館コレクションから選りすぐった近代絵画約70点を一同に展示、フランス絵画がベルギー美術に与えた影響を展観する。

② 企画展

- 1) 損保ジャパン東郷青児美術館大賞受賞記念「相笠昌義展」
(平成22年1月9日～2月21日)
「損保ジャパン東郷青児美術館大賞」を受賞した作家、相笠昌義の初期作品から最新作まで約60点で作家の画業の全貌を紹介する。
- 2) 第29回損保ジャパン美術財団「選抜奨励展」
(平成22年3月13日～4月4日)
「損保ジャパン美術財団奨励賞」を受賞した作品とさらに全国の推薦委員により推薦された作品を一堂に展示。会場審査により優秀作品を選考、表彰する。
- 3) 「所蔵作品展」
(平成21年12月5日～12月27日)
損保ジャパン東郷青児美術館コレクションから東郷青児の作品を中心にグランマ・モーゼス作品などが一堂に展示される。

③ 併設展示

- 1) 常設展示コーナー
ゴッホ《ひまわり》、セザンヌ《りんごとナブキン》を常設展示する。
- 2) 所蔵作品展示コーナー
各展覧会とも開催期間中、所蔵作品展示コーナーを併設し、東郷青児作品ならびにグランマ・モーゼス作品他を展示する。

④ 館藏品・資料・文献の充実

- 1) 館藏品の修復・点検
館藏品の保存状態を的確に把握するため定期的に点検および記録写真の撮影を行い、作品の劣化防止に適切な手段を講じるほか、必要に応じて作品の修復、額縁の修理・取り替えを行う。
- 2) 資料・文献の収集・整備
館藏品および展示作品に直接あるいは間接的に関連した資料・文献を収集し、学芸研究および展示活動の充実を図る。
- 3) パソコンの有効活用による資料・文献の収集・整備
パソコンの有効活用を図り、資料・文献の収集・整備、インターネットの活用による他館情報などの入手を積極的に行う。

⑤ 調査・研究

- 1) 学芸職員の研修
適切な指導・助言のもとに資料研究あるいは保存・展示技術の研修を進める。また、学会や各種機関の研修会・講座などに参加するほか、特色ある美術館や展覧会の見学などを通じ、学芸員の能力向上を図る。

- 2) 各種図録・解説書の刊行・頒布および説明会の開催
各種展示の理解を助けるため、図録、解説書を作成するほか説明会などを随時開催し、展覧会の充実に役立てる。特に、青少年を対象とした解説書の作成、説明会の実施などを積極的に推進する。

(2) 展覧施設の運営管理

① 公共への協力

1) 施設・資料の共用

公共体、教育機関あるいは美術研究者等からの美術に関する調査・研究・実習による施設および資料共用の要請に対し、可能な限り協力する。

② 他美術館との連絡・協調

- 1) 博物館会議、美術館会議などに参加して情報の交換を行うほか、随時見学等を行い、他美術館との連絡・協調を密にする。

- 2) 美術品の貸し出し(館外展を除く)

ポール・ゴーギャン《アリスカンの並木路、アルル》を以下の展覧会に貸し出す。

「ゴーギャン展」

名古屋ポストン美術館(会期 4/18～6/21)、

東京国立近代美術館(会期 7/3～9/23)

③ 広報活動

1) マスメディア

新聞、雑誌、テレビ等マスコミの取材に積極的に対応するほか、インターネットの積極的活用を含め広告媒体についても多様化を進め、展覧会および美術館の広報を行う。

2) ホームページ(インターネットによる発信)

ホームページにおいて自館の展覧会情報、所蔵作品情報とともにゴッホ美術館関係の情報提供を行っていく。

2. 教育普及活動

- 1) 学校など外部機関の教育活動としての美術館利用に協力し、教育活動の実を上げる。

- 2) 美術鑑賞支援策として対話による鑑賞を本格的に実施する。

- 3) 博物館実習生の受入れ

各大学からの学芸員資格取得のための博物館実習生の受け入れ要請に協力する(14大学 16名予定)。

3. 助成関係事項

(1) 優秀な美術家の表彰

- ① 損保ジャパン東郷青児美術館大賞の授与
第32回(2008年)受賞者の表彰を行い、賞状と賞金200万円を贈呈する。
- ② 損保ジャパン東郷青児美術館大賞の選考
第33回(2009年)受賞者を1名選考する。(平成22年3月の予定)

(2) 新進美術家の育成援助

- ① 損保ジャパン美術財団奨励賞を36団体の公募展に授与する。
- ② 損保ジャパン美術財団選抜奨励展及び同展における優秀作品の表彰
第29回展となる本展では、各団体の奨励賞受賞作家の作品と推薦委員から推薦された作家の作品を加えた展覧会を開催し、出品作品の中から優秀な作品を選考、表彰する。

以上